

I 学校教育目標(目指す生徒像)

- 1 自ら学び考える生徒 (積極性・自主性・自律性)
- 2 命を大切にする生徒 (自尊感情・思いやりの心)
- 3 何ごとともやりぬく生徒(責任感・忍耐力)

II 学校経営の基本(目指す学校像)

21世紀を生き、次代を担う「自ら学び考える生徒・命を大切にする生徒・何ごとともやりぬく生徒」を育てるために、5項目からなる経営方針を掲げ指導の重点化を図る。

- 1 豊かな「知性」を育てる教育の推進
- 2 豊かな「感性」を育てる教育の推進
- 3 豊かな「社会性」を育てる教育の推進
- 4 開かれた学校づくりの推進
- 5 特別支援教育の推進
- 6 健やかな体の育成
- 7 安全・安心な学校づくりの推進

III 学校経営の重点

1 義務教育を託されている公立中学校の使命を果たす。

【生徒に対して】

(1)学習のねらいを明確に示し生徒一人一人の学習意欲を高める。体力の向上を図る。

- ①基礎学力の定着を図り、思考力・判断力・表現力をはぐくむ。また、体力向上の取組を推進する。
- ②「生徒が学ぶことに真剣となる授業」を目指して、指導方法や指導技術、評価方法の質的向上を図る。

(2)思いやりの心、やさしい心、感謝の心により、共に助け合って生きる態度を育成する。

- ①生命の大切さを理解させ、他の人の立場に立って行動できる心と態度を育成する。
- ②いじめ防止アンケートの結果を踏まえ、いじめのない学校・学年・学級づくりを進める。

(3)協働の学校づくりと、体験活動により、心身ともに健康に生きる態度を育成する。

- ①総合的な学習の時間や特別活動を通じて、生徒の自治的能力を向上させる。
- ②学校行事や部活動を通して健康の増進と体力の向上を図り、更に食育、特別支援教育の充実に努める。

具体的な方策 (自己申告書に取り入れる)

- a)一人一人の能力や特性に応じた指導を行い学力の定着を図る。(・習熟度別による教材準備・習熟度別教科指導)
- b)学習の明確なねらいと具体的な内容を示し反復学習を定着させる。
- c)各種検定試験に挑戦できる能力を育成する。(・漢字検定・英語検定・数学検定・地理検定・歴史検定など)
- d)学習意欲を高める指導と評価の一体化を工夫した教育活動を行う。
- e)校舎、教室環境の整備及び美化を推進する。(・掲示物の工夫・壁面の工夫・板書の工夫)
- f)学習習慣を確立させる。(・家庭学習の定着・宿題の点検及び評価・予習、復習の徹底指導)
- g)基礎学力の定着を図る。(・読む力、書く力、計算力・ノート記入方法の指導)
- h)道徳教育・道徳授業の充実に努める。(・体験をいかした道徳教育・考え議論する道徳授業・人権教育の推進)
- i)読書教育を推進する。(・読書習慣・朝読書・読書感想文コンクール)
- j)生徒の自治的能力やコミュニケーション能力を育成する。(生徒会活動、委員会活動、各行事等)
- k)集団規律とマナー指導の徹底(挨拶の励行、生徒自ら取り組む「いじめ撲滅活動」の実施等)
- l)生徒の体力向上向け積極的に取組む。(都体力向上推進校として取り組む)
- m)オリンピック・パラリンピック推進校として積極的に取組む。(国際理解・外国の文化研究・スポーツ推進)

2 教育の充実・発展に挑戦し、組織が機能する学校を目指す。 【教職員に対して】

(1) ライフ・ワーク・バランスの実現に向け、組織を十分に機能させ、迅速、円滑な学校運営を目指す。

- ① 運営委員会の開催により、学校として進むべき方向を検討し、迅速に学校運営を行う。
- ② 教職員のチームワークや求心力を生かし、課題解決に向けて最善を尽くす。

(2) 教育専門職として、研究・研修を大切に、ともに高め合う学校をつくる。

- ① 年間を通した研修テーマを設定し、教員としての視野を広げて行く。
- ② 「道徳」の教育計画についてより具体的な取り組みを行う。

(3) 校内配当予算を適正に実施させる。また、事務処理の効率化を図る。

- ① 事務処理の効率化を高めるために、ICT化を研究・推進する。
- ② 予算の伴う改善については、優先順位をつけて執行していく。

具体的な方策（自己申告書に取り入れる）

- a) 経営方針・指導重点を具現化した学年・学級経営を行う。
- b) 主幹教諭・主任教諭のリーダーシップにより、組織的な学校運営を行う。（・事案決定システム・報告・連絡・相談の徹底）
- c) 学年組織をいかし見通しのある学年経営を行う。
- d) 校内研修の充実を図る。（・教科専門研修の実施・授業改善・研究授業の実施・教科指導のスキルアップ）
- e) 諸会議の効率化を図る。（・事前の資料配布）
- f) 教職員のコスト意識を向上させる。（・時間コスト・節電、節水の徹底・施設設備の整備と管理）
- g) 重要度・必要度に応じた予算計画及び予算執行と緻密な予算計画により早めの予算執行をさせる。
- h) ICTを活用した事務処理の効率化と施設・設備の整備と管理を行う。
- i) 組織をいかした教育相談体制を確立する。（・スクールカウンセラーの有効活用）
- j) 生活指導目標等を示し、全校指導体制を確立させる。（・挨拶の励行・部活動や異年齢集団活動での礼儀指導）

3 開かれた学校を目指し、地域の信頼を確かなものにする。 【家庭・地域に対して】

(1) 保護者・地域との連携を深め、学校教育活動の活性化と充実に努める。

- ① 来年度の学校地域支援本部立ち上げに向け、積極的に地域の人材・環境・施設等の有効活用を図る。
- ② 小中の連携を強化し、PTA行事、地域行事等への生徒参加を促し、地域の一員として自覚をもたせる。

(2) 外部評価を充実させ、保護者や地域の評価を真摯に受け止める。

- ① 改善が必要な事項については、その解決のための方策を早急に提案し実践していく。
- ② 学校評議員会を開催し、経営状況を説明して改善すべき課題を示唆していただく。

(3) 教育公務員としてのサービスの厳正に努め、地域からの信頼に応える。

- ① 「調布第六中学校の服務規程」に従い、公正な職務遂行にあたる。
- ② 教職員の人権感覚を磨き、特に「体罰」は絶対に許せないという学校の風土を確立させる。

具体的な方策（自己申告書に取り入れる）

- a) 小中連携教育の充実を図る。（・出前授業の実施・行事の交流・小中合同の研修会）
- b) 積極的に保護者や地域に情報の発信を行う。（・学校便り・学年便り・学級通信の定期的発行・HP更新）
- c) 外部評価をいかし学校改革を進める。（・行事アンケート・保護者の授業評価・生徒の授業評価・HPで学校評価）
- d) 地域に根ざす学校づくりを進める。（・地域行事の積極的参加・外部講師の充実）
- e) 服務研修を充実させる。（年間10回の研修の実施）
- f) 教育公務員として信頼を得る。（・服装・言葉遣い・適切な電話の受け応え・保護者、地域、来校者への対応）
- g) 防災教育の充実（防災シュミレーション）